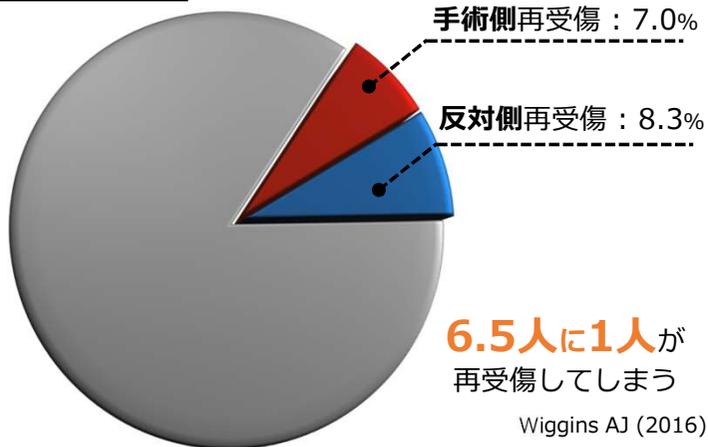


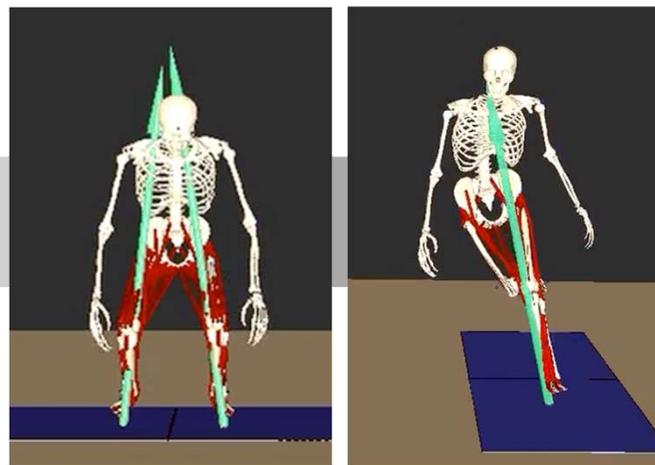
前十字靭帯(ACL)再建術症例のバイオメカニクスの検討

再受傷(手術側・反対側)を防ぐために、動きの分析によって要因を明らかにする

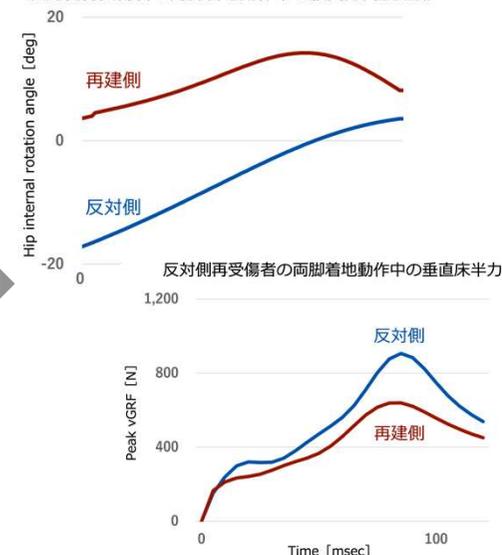
再受傷発生率



再受傷者のスポーツ動作の特徴を分析



反対側再受傷者の両脚着地動作中の股関節内旋運動



わかったこと

- ACL再建術後は、術後の動作不良（かばったような動き）がスポーツ復帰の頃まで残っていることが多い
- 着地動作などのときに手術側の脚で十分に衝撃を吸収できていないことが、再受傷の要因の一つと考えられる
- 再受傷した症例は、手術と反対側の股関節運動やお尻の筋肉の使い方の変化が生じている

学会発表
論文投稿

「ACL不全の若年女性スポーツ選手の歩行動作の下肢キネマティクスの特徴」日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2016

「膝前十字靭帯不全膝の膝関節回旋運動方向と下肢キネマティクスの関連～若年スポーツ選手の片脚スクワット動作における検討～」日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2017

「膝前十字靭帯再建術前の異常歩行が術後の歩行動作中の下肢キネマティクスに与える影響」日本スポーツ理学療法学会学術集会, 2018

「膝ACL損傷再受傷者の両脚・片脚着地動作時の衝撃緩衝能～術前及び競技復帰時期における検討～」日本スポーツ理学療法学会学術集会, 2019

「Biomechanical Risk factors During Double-leg Landing Associated with Contralateral ACL injury After ACL Reconstruction and Return to Sports」JOSSM&JOSKAS, 2020